

平成17年台風14号出水におけるダムの洪水調節について

1. 台風14号出水では、奥越地方において下記の降雨を観測しました。

九頭竜ダム上流域

流域平均 総雨量 約152mm (最大時間雨量 約25mm (7日6時))

地点最大 (久沢観測所) 総雨量 約171mm (最大時間雨量 約27mm (7日6時))

真名川ダム上流域

流域平均 総雨量 約141mm (最大時間雨量 約20mm (7日5時))

地点最大 (温見観測所) 総雨量 約203mm (最大時間雨量 約24mm (7日4時))

2. 九頭竜ダムでは、今年2度目の洪水調節 (洪水をダムに貯め込む操作) を実施しました。両ダムとも、今年最大の流入量を観測しました。

九頭竜ダム 最大流入量 約444 m³/s (7日7時)

雨の降り始めの水位 (6日16時) 標高 約554.39m

最高水位 (7日15時時点) 標高 約555.06m (上昇中)

真名川ダム 最大流入量 約264 m³/s (7日8時)

雨の降り始めの水位 (6日12時) 標高 約334.79m

最高水位 (7日10時) 標高 約338.20m

3. ダムの洪水調節による河川の水位低減効果

九頭竜ダム、真名川ダム、笹生川ダムの3ダムは、九頭竜川の水位低減に効果を発揮しました。

九頭竜川中角地点では、約1.8m水位を下げる事が出来ました。

(別紙「基準地点でのダム効果」参照)

4. 参考資料

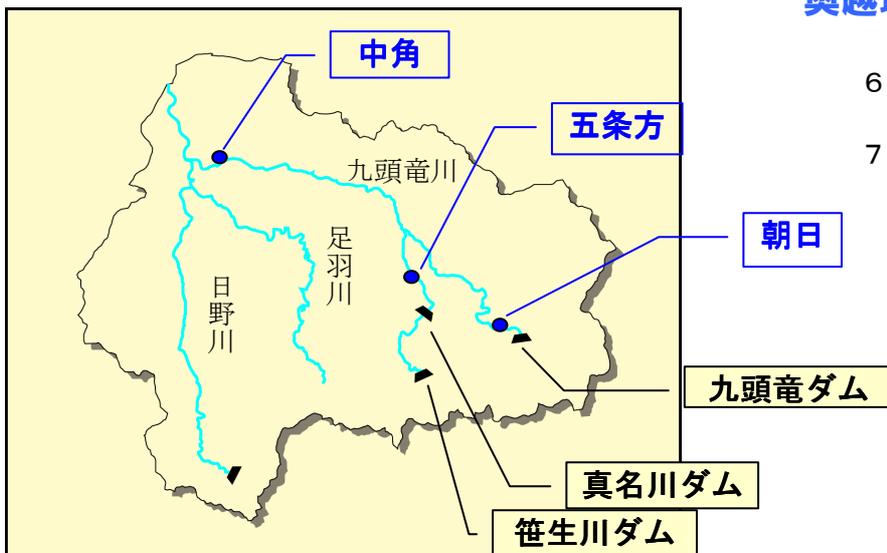
① ダムの洪水調節グラフ

② 各ダムの諸元

③ 用語の解説

データはすべて速報値です。(7日15:00時点)

位置図



奥越地方の注意報・警報

6日 18:35
大雨・洪水 注意報発令

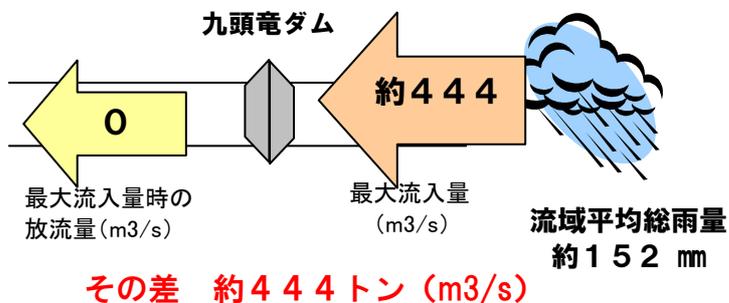
7日 4:31
大雨・洪水 警報切替

11:10
大雨・洪水 注意報切替

ダムによる洪水の調節

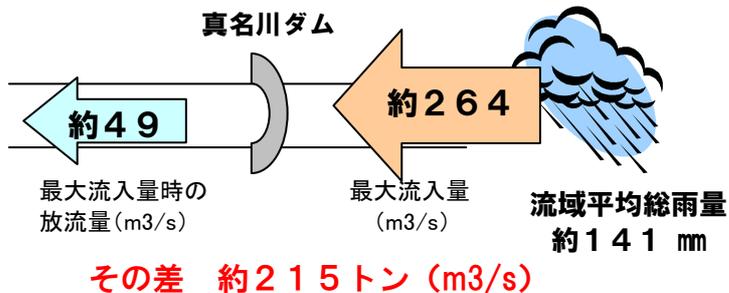
九頭竜ダム

九頭竜ダムでは、最大流入量約444トン (m³/s) に対し、そのすべてをダムに貯留することにより洪水を調節しました。



真名川ダム

真名川ダムでは、最大流入量約264トン (m³/s) に対し、約49トン (m³/s) の放流を行い、その差約215m³/s をダムに貯留しました。



参考資料

① ダムの洪水調節グラフ

別添

② 各ダムの諸元

九頭竜ダム(国土交通省)

河川名：九頭竜川 完成年：昭和43年
堤高：128.0m 集水面積：184.5km²
目的：洪水調節、発電
洪水調節容量：33,000,000m³

真名川ダム(国土交通省)

河川名：真名川 完成年：昭和54年
堤高：127.5m 集水面積：223.7km²
目的：洪水調節、発電、不特定用水の確保
洪水調節容量：89,000,000m³

笹生川ダム(福井県)

河川名：笹生川 完成年：昭和32年
堤高：76.0m 集水面積：70.66km²
目的：洪水調節、発電、水道用水、不特定用水の確保
洪水調節容量：11,280,000m³

③ 用語の解説

《用語の解説》

【ダムの洪水調節】

上流から流れ込む洪水の一部をダムに貯留し、下流の洪水被害を軽減させるダム操作のこと。ただし、ダムの能力を超える大きな洪水が流入した場合には、ダムへ流入する洪水をそのまま下流へ流す。この場合でも、流入する洪水以上の流量を下流へ放流することはないので、ダムによって洪水が起こることも、また、ダムによって被害が大きくなることもない。

【洪水調節量】

流入量から放流量を差し引いた流量をいう。

【洪水調節容量】

洪水調節に使用する容量。(通常、空^{から}となっている。)

【流域】

降雨が地表や地中を通して、その河川に流れ込んでいる全地域のこと。